



みどりを育む

横造協だより



発行 Vol.29
 社団法人 横浜市造園協会
 広報委員会
 横浜市中区尾上町1-6 住友生命横浜関内ビル7階
 TEL 045-662-9897 FAX 045-664-5633
<http://www.yokohamashizen.or.jp>

横浜市の緑の保全・創造の取組について

横浜市環境創造局 みどりアップ推進担当理事

小山 義訓



はじめに

横浜市造園協会の皆様には、日頃から、公園の整備や、維持管理、横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）におけるいきいき街路樹事業、緑化の推進など、様々な場面で、本市の緑をつくり、育てる取組に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）豊かな緑の実感と取組の継続

昨年の「よこはま花と緑のSpringフェア」では、山下公園の花壇展が記念すべき50回を迎えました。横浜市造園協会の皆様から御出展いただいた美しい花々は、訪れるお客様の心を和ませ、とても喜んでいただきました。横浜の顔と言えるところで、美しい景観を創り出し、魅力を発信してくださっていることに、心から感謝申し上げます。

また、横浜は市街地の中心に緑が残り、生活に身近なところで自然を感じられる街です。大都市にいなながら、森の中の散策を楽しんだり、生き物に触れたりすることができません。身近な緑を安全で快適に楽しむこと



よこはま動物園ズーラシア アフリカのサバンナ (25年4月オープン予定エリア)

「農地を守る」施策では、110haを超える水田の保全が図られています。また、市民の農体験ニーズに対応した農園付公園の整備を進め、今年4月には第1号の南本宿第三公園が開園します。

「緑をつくる」施策では、地域ぐるみでの緑化計画づくりが進み、中区馬車道

地区などで計画に沿った緑化に取り組んでいます。また、園庭や校庭の芝生化を約100か所で行い、子供たちが緑に触れる機会を増やしています。

横浜みどり税を安定した財源として活用することで、取組は大きく進んでおり、これらの成果を多くの市民の皆様が実感していただけるよう、25年度は全力でラストスパートをかけていきます。

緑の保全、創造は、長期的な視点で継続すべき、重要な取組です。緑あふれる環境を、次世代に引き継いでいくために、現在、26年度以降の緑化施策の策定を進めています。施策の策定にあたっては、これまでいただいた様々な御意見を踏まえ、従来の取組に加え、都心臨海部における緑や花による賑わいづくりなど、市民が実感できる緑をつくる取組の強化や、市民の皆様にとつて身近な存在である都市公園での新たな取組を検討しています。

今後、26年度以降の緑化施策の素案に対して市民の皆様への御意見を募集し、市会での審議をいただきながら、26年3月には施策を確定します。引き続き御協力をお願いします。

公園の整備 今こそ公園の力を

公園をはじめとする緑の空間には、市民の暮らしを

支える様々な機能があります。地域活動の場、子供の遊び場、健康づくり、景観形成、生物多様性の保全やヒートアイランド現象の抑制など、いずれもとても大切な役割を担っています。

とりわけ、防災・減災の面で大切な役割を持つことは、この度の震災からも再認識されました。横浜市造園協会の皆様には、これまでも台風などの災害時に迅速な対応をしていただいております。さらには、一層の連携強化を図るため、昨秋には、災害協定の証明書を発行させていただきました。

今年春には、そのような高い技術力を活かして整備していただいた俣野別邸庭園の一部、よこはま動物園ズーラシアの「アフリカのサバンナ」が部分開園します。これらの特色ある魅力的な公園に多くのお客様が訪れ、楽しんでいただくことを期待しています。

金沢区の小柴貯油施設跡地では、新たな大規模公園としての整備に向けた計画づくりが始まります。市民の皆様への御意見を伺いながら、豊かな緑の恵みを感じられる公園づくりを進めていきます。横浜市造園協会の皆様のお力添えをお願いいたします。

おわりに

横浜の街なかの美しい緑、郊外部に残された緑は、訪れたお客様を惹きつける、大都市横浜になくてはならないものです。また、



園庭芝生化



森づくりを推進している樹林地

横浜市の皆様には、今後も御一緒に横浜の緑を守り、つくり、育てていくパートナーとして、豊富な御経験と技術、知恵を発揮していただき、御協力をお願いします。

昭和28年	新潟県生まれ
昭和52年	千葉大学園芸学部卒業
昭和52年	横浜市入庁
昭和52年	緑政局管理課維持係長
昭和52年	建設課長
昭和52年	日産スタジアム副場長
昭和52年	環境創造局みどりアップ推進部長
昭和52年	公園緑地部長 等
平成24年	環境創造局みどりアップ推進担当理事

平成 25 年 新年賀詞交歓会を開催



営できます事は間もなくお見えになる林市長様はじめ、多くの市幹部・自民党横浜市連の先生方のご尽力のお蔭と深く感謝申し上げます。

自由民主党様におかれましては、昨年の衆議院選挙で大幅に議席を増やし政権与党に復帰されました。景気の回復、雇用の確保、震災の復興エネルギー問題の対応などに大いに期待をされているところであります。

さて、私達業界が一番関心を持ち願っていることは、先ほど申し上げましたが景気の回復でございます。景気後退期に入り、長い間公共事業費の削減と民間による市場の縮小により厳しい状況下にありまして。今年は緊急経済対策などにより公共事業費の予算の増額が見込まれております。この増額予算が横浜市の公園緑地整備費・維持管理業務費などに反映されることを切に願います。



会長 生駒隆一
あいさつ (要旨)

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては新たな希望と抱負を胸に新年を迎えられたことと存じます。

横浜市の造園協会が事業運営

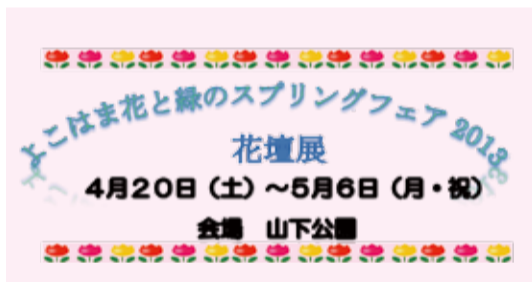
席いただいた皆様方のますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして新年のごあいさついたします。

横浜市
林文子様
ご祝辞 (要旨)



横浜市造園協会の皆様、あけましておめでとうございます。

横浜市造園協会の皆様には、日頃から、公園の整備・街路樹の維持管理・緑化の推進に、大きなお力添えをいただき、本当にありがとうございます。グリーン化が進み、都市間競争が激しくなる中で、豊かな環境と魅力的な空間を生み出し、都市として価値を高めていく事の重要性を、私は強く感じております。緑豊かな街並み、花や緑による魅力的な空間の創出は、都市としての魅力を向上させ、賑わいづくりを促進いたします。身近な緑を創り、守り育て、次世代に引き継いでいくことは、私たちの責務です。長期的な視線で継続的に取り組むべき重要な課題であると、考えてお



ります。横浜市を訪れる海外のお客様から「横浜の街は本当に美しい」と、お褒めいただいております。今後も、横浜がますます魅力的な街となり、多くのお客様に選ばれ都市となるよう、ぜひとも更なるお力添えをお願い申し上げます。

今年、「横浜市中期4か年計画」・「横浜みどりアップ計画」も、いよいよ最終年度でございます。これまで、369万人の市民の皆様が安全安心を確保するための施策とそのためにも必要経費の活性化を実現するため、市会の先生方と懸命に施策を進めてまいりました。昨年、横浜の街全体を舞台に開催しました、スポーツ・文化のイベントには、予想を上回るお客様にいらしていただき、横浜市全体のホテルの年間平均稼働率は82.8%になり横浜の街に賑わいが戻って来たことを、実感しております。少子高齢化が進み、労働生産人口

が激減していく時代に、女性の社会進出を支援するため、全力で進めてまいりました保育所待機児童の解消も、今年4月でゼロになることが現実的になってまいりました。そして「みどりアップ計画」は、造園協会の皆様や市会の先生方をはじめ多くの方々のご理解とご協力によって、現在、事業が進んでおります。今年はこのように施策の総仕上げの年でございます。



日比谷公園ではガーデンコンテスト出展作品を見学し、井の頭恩賜公園ではNPO法人 葎会(受精回復研究会)の樹勢回復勉強会に参加した。樹木の持つ自然回復力を活用した樹勢回復について施工事例を見ながら、治療方法等の説明をいただいた(参加者47名)。

「第 29 回全国都市緑化フェア TOKYO」 見学研修会を開催



花の庭—生命の館—井の頭恩賜公園会場

世界に誇る国際都市東京に新しい緑の風を吹かせようと「緑の風が吹きぬける東京」をテーマに「第29回全国都市緑化フェアTOKYO」が9月29日から10月28日まで開催されました。6つのメイン会場のうち日比谷公園・井の頭恩賜公園会場を10月19日に見学研修会をした。

園の名物である花壇展は、昨年、記念すべき50回を迎えました。皆様からご出展いただく美しい花に彩られた花壇に、多くのお客様が大変喜んでおられます。今年もますます見事な花壇を拝見できることを、楽しみにしております。横浜市造園協会の今後ますますのご発展を、心からお祈り申し上げます。日頃の御礼と新年の挨拶とさせていただきます。

都市公園コンクール国土交通大臣賞 受賞（横浜公園再整備工事）について

横浜市環境創造局公園緑地整備課

清水 邦彦

都市公園 コンクールとは

一般社団法人日本公園緑地協会が主催する、都市公園の設計、施工等に関して、特に優秀と認められた作品を表彰するものです。平成24年度の第28回都市公園コンクールにおいて「横浜公園再整備工事」が造園施工部門（大規模）で国土交通大臣賞を受賞しました。

率のアップを目的としました。また今までの歴史を踏まえ、歴史ある施設、既存の樹木などを活かしながら都市部の公園としてより魅力あるものに整備することを心がけました。

それでは、年度を追って整備内容と施工者皆様の創意工夫をご紹介します。

横浜公園の再整備 工事（平成20年度 ～23年度）について

横浜公園の再整備は「歴史と利便性の融合」横浜公園再整備の試み」をテーマに、バリアフリー化、利便性・安全性の向上、緑被



平成 20 年度整備 噴水広場



平成 21 年度整備 園路と芝生広場

率のアップを目的としました。また今までの歴史を踏まえ、歴史ある施設、既存の樹木などを活かしながら都市部の公園としてより魅力あるものに整備することを心がけました。

この4カ年、横浜公園再整備に対する各施工業者さんの創意工夫、熱意を持った施工をしてくれたことか

評価をうけたところ

10月30日マリンタワーホールにおいて、平成24年度横浜市優良工事表彰式が行われた。

適切な工事の施工・施工技術の向上および施工者の意欲の向上を目的として、横浜市の発注した工事を優秀な成績で施工した施工会社58社及び現場責任者57名が表彰された。ここに土木・造園部門で受賞した当協会員の作品（①会社名②工事箇所名③現場代理人氏名）及び技術者を紹介する。



平成 23 年度整備 市庁舎側園名ウォール

これからの施工業者のみならず、技術と熱意とともに、より良い魅力ある公園づくりを目指したいと思えます。また今回の再整備には電気、設備、建築の施工業者さんの努力を忘れることは出来ません。関係したみなさまに感謝します。ありがとうございました。

最後に

現場責任者表彰

現場責任者表彰

平成20年度整備（横浜庭苑株式会社）は日本大通り側入口から噴水までのメイン園路と日本庭園部の整備を行いました。入口広場、メイン園路、噴水広場の御影石舗装において目地の割付や曲線部に使用する石のカットなど綿密な施工図を起し現場に収まるように対応してくれました。また日本庭園部においては既存の山に埋もれていた石を岩

平成21年度整備（藤田澤JV）は芝生広場とサブ園路などの整備を行いました。アルゼンチン斑岩による園路舗装において職人さんたちが仕上がりを共有するために舗装パターンを試作して、お互い認識してもらい、そのことにより分散施工が可能となり工期短縮につながりました。芝生保護マットの施工では施工しづらい曲線部も丁寧に行い園路線形も美しく見えるように施工してくれました。

平成22年度整備（藤造園建設株式会社）は市庁舎側入口から中華街側入口までの園路、噴水広場周辺、門柱、サインなどの整備を行いました。中華街側の出入口のモザイクタイル舗装は模様・色彩

平成23年度整備（堀造園株式会社）は市庁舎側入口から関内駅側入口までの園路、遊具広場（複合遊具の整備）、外周壁改修、門柱、水の広場改修などの整備を行いました。園路沿いウォールのLED照明内蔵部分をPC化する工夫や水の広場と関内駅側入口の洗い出し舗装の種石について

平成24年度
横浜市優良
工事表彰



① 藤造園建設（株）
② 磯子台公園ほか7公園施設改良工事
③ 石川重雄



①（株）三橋緑化興業
② こども自然公園一部再整備工事
③ 根岸成年



① 堀江造園（株）
② 横浜公園再整備工事（1）
③ 堀江栄作



①（株）新正園
② 貨物線の森緑道一部整備工事（その2）
③ 石山知広



松本 毅
藤造園建設（株）



堀江栄作
堀江造園（株）



石山知広
（株）新正園



石川重雄
藤造園建設（株）



跡部一晃
横浜庭苑（株）



会田昌弘
奈良造園土木（株）

樹木に魅せられて (第24回)

みどりが素敵な思い出の ひとつとなるように

横浜市環境創造局
みどりアップ推進課 矢部美香

職業とこの 「造園」

造園技術者が公園の樹木の管理において重きを置く意義や目的は、樹木そのものの健全な生育であったり、風格ある日本庭園の佇まいなどいろいろあると思います。私の場合、自分が育った地元横浜で仕事を始めたことがきっかけで、自分なりに樹木、緑を管理する仕事の意義や目的を見つけていくことができたと思



した。勉強するうち、造園という学問の領域は、自分本来の趣向や興味によくなじむことに改めて気づきました。学生時代、よく歴史の好きな友人に誘われて京都などの神社仏閣めぐりを



しましたが、私がそこで楽しんだのは庭や四季折々の風景の方でした。日本らしい風景に造園は向き合い光を当てているんだと感じました。

そんなこともあって、造園に進路を定めた私は実家のある地元横浜市に採用されました。市の北西部方面の公園緑地事務所で公園と街路樹の管理の仕事を担当するようにになりました。

公園には遊具や広場もあれば、ひと固まりの林かと思えば、プールと様々な種類の施設があります。造園職とはいっても大学を出たばかりで本当に素人同然でしたから、作業班に連れられて、施設ごとの管理方法を始め、広場の緑なら広場らしい緑の管理方法、出入口にある緑の管理方法、林の管理方法を教わりまし

た。樹木や草花にまつわる様々な素敵な思い出は記憶していても、そこがどんな場所であったかを全く気にとめてはいなかったのです。子供の頃の記憶に残っていた緑の風景が、15年以上の時を経た今なお「公園」「緑地」の中になじりか

身近な公園 という空間

担当するようになって3ヶ月以上過ぎた頃のことだったと思います。私は担当区の中を不慣れた運動で巡回しているうちに、なぜ

だか、とある公園の外周緑地が気になってきました。そして偶然に友人の家の前を通りかかった時気になっていた公園は、小学校の頃その友人とよく遊んだ公園だったと思ひ至りました。まさか自分が遊んだことのある公園の修繕工事や植栽管理などを行うとは思っていませんでしたから、運転しながら慌てている自分に驚きました。そして、子供の頃に親しんだ緑の場所が実は「公園」という空間であったという認識がなかったことを改めて思い知らされました。

また小学生の時、母と散歩したすみれが美しい思い出深い林が市民の森だったことに気づき、これまた驚く始末。

樹木や草花にまつわる様々な素敵な思い出は記憶していても、そこがどんな場所であったかを全く気にとめてはいなかったのです。子供の頃の記憶に残っていた緑の風景が、15年以上の時を経た今なお「公園」「緑地」の中になじりか

と残っている目にする事ができるという事実、改めてすごいなあと感じました。そして、「公園」「緑地」であったからこそ、先人のたゆまぬ管理が続けられ、この感慨に浸ることができ、造園の仕事について理解できました。

公園の緑が市民の方の素敵な思い出として心に刻

管理から 設計・監督に

その後管理から、公園や市民の森、町中の緑化等の工事の設計、監督に携わりました。

そこでは多くの緑の種類があることを実感しました。身近な公園や林、田んぼ、小川、農家住宅が存する10haの総合公園、サクラの山を残した公園、残さ

まれ、公園が管理され緑が守られることで、その思い出も消えず生き続けていくことの大切さ、地元で働く機会を得たからこそ、私はこのことに気づくことができ、仕事の意義として意識するようになりました。

れた緑が市民の森、河川沿いの花壇。基盤を整える工事が多かった中で、農家の住宅を公園にする工事で新たに設けた植栽帯には、裏山のキブシと既存のカエデで、早春と秋が混じるイメージにしてもらいました。マンサク

やミツマタ、ジンチョウゲを新たに植栽してもらいました。小さな植栽帯でしたが、市民の方と意見が合っ

てうれしく思った瞬間です。写真は冬で残念です。今後みどりが誰かの素敵な思い出のひとつになっ



株式会社植勤 江原純夫氏を偲んで



創業130有余年。株式会社植勤4代目社長江原純夫氏が、昨年11月5日に68歳で逝去されました。

伝統的な作庭技術をはじめ造園一筋に捧げられた人生でした。昼間は現場で夜は夢の中で声を張り上げ!! 仕事に没頭しておられました。この造園技術や精神を我々は受け止め、これから

の若い造園人達に伝えてい

く必要があると考えております。

仕事のみならず遊びにもそれ以上に全力投球する様は、まるでスーパーマンのようでした。近年稀にみる親分肌の人柄は当然ながら皆から慕われておりました。

緑があつて一緒に旅をすることがありましたが、酒の飲み方・イビキと歯軋りは半端ではありませんでした。全てにおいて豪快な方

でした。江原氏の死は余りにも早すぎました。ヨコハマの大切な宝を失くした寂しさは当協会の会員のみならず、多くの造園人達の心に喪失

感を残しております。

しかし江原氏との思い出は私たちの心の中で生き続けています。今もこれからも...

※植勤の由来は配達などで近所「植勤」を目印として使っていた事から、横浜市から登録の依頼があり約40年前に名付けられました。横浜で唯一の由緒ある個人名のついた坂です。

顧問 藤巻 司郎

計報

小菅カヨ様
10月21日(享年96)
(株)小菅造園 社長
小菅勇様 ご母堂

江原純夫様
11月5日(享年68)
(株)植勤 代表取締役

福岡平治様
2月15日(享年87)
(有)福岡造園
代表取締役
福岡秀剛様 ご尊父

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

終わりの言葉

明治9年に開園した横浜公園は、大正12年の関東大震災、昭和20年の戦災の後、幾多の整備を重ね、現在は市民の憩いの場所となっております。横浜市内では2番目に歴史のある公園で、来る4月20日(22日)には「チューリップまつり」が開催されます。また、明治5年に開園した山下公園では当協会会員が丹精こめて造りあげた「花壇展」が開催されます。当協会にとって、市民の皆様が二大イベントの会場においていただき、草花に親しみをもち、一輪・一株の草花をご家庭で育てていただければ幸いです。(広報委員会 W)